

(3) 高等学校学習指導要領の各教科における情報活用能力の育成に関する部分(比較)

ア 情報の判断、選択、整理、処理能力及び新たな情報の創造、伝達能力	現行学習指導要領
<p>新学習指導要領</p> <p>第2章 普通教育に関する各教科</p> <p>第1節 国語</p> <p>第1 国語表現I</p> <p>1 目標</p> <p>国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>次の事項について指導する。</p> <p>ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。</p> <p>イ 情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。</p> <p>ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。</p> <p>エ 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(5) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。</p> <p>ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。</p> <p>イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。</p> <p>ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。</p> <p>エ 身近にある様々な表現を集めその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。</p> <p>(6) 教材は、特に、論理的思考力を伸ばす学習活動に役立つもの、情報を活用して表現する学習活動に役立つもの、歴史的、国際的な視野から現代の国語を考える学習活動に役立つものを取り上げるようにする。</p> <p>第2 国語表現</p> <p>1 目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>1の目標に基づき、「国語表現I」の内容に示す事項について指導する。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 「国語表現I」との関連を重視しながら、「国語表現I」の内容に更に習熟させ、話すこと・聞くこと及び書くこと的能力を一層高めるよう指導するようにする。</p> <p>その際、「国語表現I」の3の内容の取扱いの(2)から(6)までと同様に扱うものとする。</p> <p>(2) 生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる。</p> <p>第3 国語総合</p> <p>1 目標</p> <p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容のAに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 話をよく聞き取る能力や態度を身に付けさせること。</p> <p>ウ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。</p> <p>(7) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。</p> <p>(4) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。</p> <p>(9) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。</p> <p>(3) 内容のBに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。</p> <p>(7) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。</p> <p>(4) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p> <p>(9) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。</p> <p>(6) 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>イ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。</p> <p>(I) 情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。</p> <p>(カ) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>(キ) 生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。</p> <p>(ク) 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つこと。</p> <p>第4 現代文</p> <p>1 目標</p> <p>近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。</p>	<p>第2章 普通教育に関する各教科</p> <p>第1節 国語</p> <p>第3 国語表現</p> <p>1 目標</p> <p>国語で適切にまた効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって生活を充実させる態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>次の事項について指導する。</p> <p>ア 適切な話題や題材を取り上げ、それについて情報を収集し、整理し、自分の考えを深めて、主題や論旨を明確にすること。</p> <p>イ 観察、調査などに基づいて、事実、状況などを正確に説明したり、記録や報告にまとめること。</p> <p>ウ 構想に従って材料を整理し、意見、主張などを筋道を立てて話したり書いたりすること。</p> <p>第1 国語</p> <p>1 目標</p> <p>国語を的確に理解し適切に表現する能力を養うとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容のAの指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 作文の指導には1単位時間程度を配当するものとし、生徒の表現力をできるだけ伸ばすようにすること。</p> <p>イ 話し方や話し合いの学習を充実させるようにすること。</p> <p>ウ 情報を収集し、活用する能力を身に付けさせること。</p> <p>(3) 内容のBの指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 話をよく聞き取る能力や態度を身に付けさせること。</p> <p>エ 文章の読解、鑑賞に当たっても話したり書いたりする機会をできるだけ設け、表現力、理解力の向上に役立つようにすること。</p> <p>カ 情報を選択し、整理する能力を身に付けさせること。</p> <p>第2 国語</p> <p>1 目標</p> <p>国語を的確に理解し適切に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>「国語」との関連を重視しながら「国語」の内容を更に習熟させ、総合的な国語力を一層高めるよう指導するものとする。その際、「国語」の「3 内容の取扱い」と同様に扱うものとする。</p> <p>第4 現代文</p> <p>1 目標</p> <p>近代以降の優れた文章や作品を読み解き鑑賞する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>2 内容</p> <p>次の事項について指導する。</p> <p>ア 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。</p> <p>イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。</p> <p>ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。</p> <p>エ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。</p> <p>オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 話すこと・聞くこと及び書くことの言語活動を効果的に取り入れるようにする。</p> <p>(4) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。</p> <p>ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 自分で設定した課題を探究し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。</p> <p>第3款 各科目にわたる内容の取扱い</p> <p>(2) 学校図書館を計画的に利用することを通して、読書意欲を喚起し読書力を高めるとともに情報を活用する能力を養うようにすること。また、音声言語や映像による教材、コンピュータや情報通信ネットワークなども適宜活用し、学習の効果を高めるようにすること。</p>	<p>2 内容</p> <p>次の事項について指導する。</p> <p>ア 論理的な文章について、主要な論点と従属的な論点の関係を考え、論理の展開や要旨を的確にとらえること。</p> <p>イ 文学的な文章について、主題、構成、叙述などを確かめ、人物、情景、心情などを的確にとらえること。</p> <p>ウ 目的や内容に応じた様々な読み方を通して、文章の読解、鑑賞を深め、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。</p> <p>エ 文体、修辞などと内容との関係を考え、表現上の特色をとらえること。</p> <p>オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにすること。</p> <p>カ 文章や作品を読んで要約したり、感想をまとめたり、自分の考えを筋道を立てて話したり書いたりすること。</p> <p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>(2) 学習に必要な辞書、参考資料などの利用に慣れさせ、音声言語による教材も適宜活用し、指導の効果を高めるようにすること。</p>
<p>第2節 地理歴史</p> <p>第5 地理 A</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 現代世界の特色と地理的技能</p> <p>現代世界の地域性や動向を作業的、体験的な学習を通してとらえさせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>ア 地球上の世界と地域構成</p> <p>地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置と領域などについてとらえさせる。</p> <p>イ 結び付く現代世界</p> <p>交通・通信の発達、人や物の国際間の移動などに関する資料の収集、分析などを通して、諸地域間の相対的な位置、距離関係が変化し、人々の地理的視野が拡大するとともに国家間の結合や国際貿易などが活発化、複雑化していることをとらえさせる。</p> <p>ウ 多様さを増す人間行動と現代世界</p> <p>世界各地の消費や余暇に関する行動、観光、ボランティア活動などに関する資料の収集、分析などを通して、世界の人々の多様化する行動を地理的環境と関連付けてとらえさせる。</p> <p>エ 身近な地域の国際化の進展</p> <p>生活圏、行動圏に見られる世界と結び付く諸事象の地域調査やその結果の地図化などを通して、身近な地域の国際化の進展や日本と世界との結び付きの様子をとらえさせる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 内容の(1)については、次の事項に留意すること。</p> <p>(7) ウ及びエについては、いずれかを選択して扱うこと。また、アからエまでの項目においては、地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的技能が身に付くよう工夫すること。</p> <p>(9) イについては、年次の異なる主題図や統計などを比較し関連付けてとらえさせるようにするとともに、地理情報の活用の方法が身に付くよう工夫すること。</p> <p>(1) ウについては、身近な情報を地理情報として活用する技能が身に付くよう工夫すること。</p> <p>(4) エについては、生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査を実施し、その方法が身に付くよう工夫すること。</p> <p>第6 地理 B</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 現代世界の諸課題の地理的考察</p> <p>ア 地図化してとらえる現代世界の諸課題</p> <p>世界各地に生起している地球的課題に関する諸事象を地図化して追究し、その現状や動向をとらえさせるとともに、地図化することの有用性に気付かせ、それに関する技能を身に付けさせる。</p> <p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>2 各科目の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、地図や年表を読みかたつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物、白書、画像、新聞、読み物その他の資料に親しみ、活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して学習の効果を高めるよう工夫するものとする。</p>	<p>第2節 地理歴史</p> <p>第5 地理 A</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 現代世界と地域</p> <p>現代世界の特色を地図の活用や地域調査を通して理解させ、現代世界を地理的にとらえる方法について考察させる。</p> <p>ア 地球儀、世界地図で読む現代世界</p> <p>交通・通信の発達による世界諸地域の位置、距離関係の変化及び国境を越える交流の進展、国家間の結合、領土問題などに関する現代世界の特色と動向を、地球儀や多様な地図を活用して理解させる。</p> <p>イ 地図の機能と活用</p> <p>情報の地図化や読図などの活動を通して地図に親しませるとともに、地図上の位置、距離関係を踏まえて社会的諸事象をとらえることが効果的であることを理解させる。</p> <p>第6 地理 B</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 現代と地域</p> <p>エ 地域情報と地図</p> <p>地域に関する情報を適切に選択、処理し、地図化するなどの活動を通して、地域の特色を資料に基づいて把握する方法を考察させるとともに、日常生活において活用できる地図・画像も目的に応じて作成されていることを理解させる。</p> <p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>2 指導の全般を通して、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、地図や年表を読みかたつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物その他の資料に親しみ、活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れるとともに、教育機器などの有効な効用を工夫して学習効果を上げるようにする必要がある。</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>第3節 公民</p> <p>第1 現代社会</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>エ 的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。</p> <p>第3款 各科目における内容の取扱い</p> <p>各科目の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物その他の資料に親しみ、活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して学習の効果を高めるよう工夫するものとする。</p>	<p>第3節 公民</p> <p>第1 現代社会</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>エ 的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。</p> <p>第3款 各科目における内容の取扱い</p> <p>指導の全般を通して、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、各種の統計、年鑑、白書、新聞、読み物その他の資料に親しみ、活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れるとともに、教育機器などの有効な利用を工夫して学習効果を上げるようにする必要がある。</p>
<p>第4節 数学</p> <p>第1 数学基礎</p> <p>1 目標</p> <p>数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解させ、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し数学を活用する態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>(2) 社会生活における数理的な考察</p> <p>社会生活において数学が活用されている場面や身近な事象を数理的に考察することを通して、数学の有用性などを知り、数学的な見方や考え方を豊かにする。</p> <p>ア 社会生活と数学</p> <p>イ 身近な事象の数理的な考察</p> <p>(3) 身近な統計</p> <p>目的に応じて資料を収集し、それを表やグラフなどを用いて整理するとともに、資料の傾向を代表値を用いてとらえるなど、統計の考えを理解し、それを活用できるようにする。</p> <p>ア 資料の整理</p> <p>イ 資料の傾向の把握</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の(2)については、社会生活と数学とのかかわりの身近な事例を取り上げるよう配慮するものとする。</p> <p>(3) 内容の(3)については、統計の基本的な考えを扱うものとし、また、コンピュータ等を活用した学習がなされるよう配慮するものとする。</p> <p>第2 数学</p> <p>1 目標</p> <p>方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p> <p>第3 数学</p> <p>1 目標</p> <p>式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>第4 数学</p> <p>1 目標</p> <p>極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>	<p>第4節 数学</p> <p>第1 数学</p> <p>1 目標</p> <p>具体的な事象の考察を通して、二次関数、図形と計量、個数の処理及び確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識を深める。</p> <p>第2 数学</p> <p>1 目標</p> <p>「数学」に続く内容として、指数関数や三角関数、図形と方程式及び関数の値の変化について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。</p> <p>第3 数学</p> <p>1 目標</p> <p>関数と極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。</p>
<p>第4節 理科</p> <p>第1 理科基礎</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成とその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ウ 内容の(2)のアからエまでについては、生徒の実態等を考慮し、それぞれ(ア)又は(イ)のいずれかを選択して扱うこと。その際、典型的な観察や実験を取り上げ、探究的な学習を行うようにすること。</p> <p>エ 内容の(3)については、内容の(2)の学習を踏まえ、課題を適宜設けて考察させ、報告書にまとめたり、発表を行わせたりすること。</p> <p>オ 指導に当たっては、適宜コンピュータなどの活用を図ること。</p> <p>(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 内容の(1)については、直立歩行する人類の特性から道具や火の活用が進み、文明をつくる基礎となったこと、自然観察に基づいて、人間生活にかかわる工夫が重ねられたことを扱うこと。また、言語や文字の発達により、情報が時代を超えて集積されるようになり、古代においても人類が自然の法則性を見いだしたこと、その中には今日でも通用するものがあると同時に、実証的でなく観念的なものも長く続いてきたことを扱うこと。</p>	<p>第4節 理科</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>イ 内容の(2)のアの(ア)については、元素の概念や原子、分子の存在を確かめていく過程で決め手となった諸法則に関する観察や実験を通して、物質を構成する粒子の概念が形成された過程を平易に扱うこと。</p> <p>オ ~~~~</p> <p>(イ)については、モデル実験やコンピュータシミュレーションなどを通して、大西洋中央海嶺の発見が契機となり地球表面の運動がプレートとの動きで説明できるようになるまでの過程を平易に扱い、地殻や地表に見られる地学現象がそれによって説明できるようになったことにも触れること。</p> <p>カ 内容の(3)については、(2)で学習した内容の発展として、生徒の興味・関心等に応じて、物質とエネルギー、生命と環境、宇宙と地球などの分野から、現在及び将来の社会における科学に関連した課題を取り上げて、身近な人間生活とのかかわりについて平易に扱うこと。</p>	
<p>第2 理科総合A</p>	<p>第1 総合理科</p>
<p>3 内容の取扱い</p>	<p>3 内容の取扱い</p>
<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 内容の(1)については、内容の(2)から(4)までの事項と関連を図り、具体的な事例を取り上げて扱うこと。また、内容の(2)から(4)までの中で扱うこともできること。指導に当たっては、<u>適宜コンピュータなどの活用を図ること。</u></p> <p>ウ 内容の(2)から(4)までについては、各項目を有機的に関連付けて自然を総合的にとらえられるようにすること。</p> <p>エ 内容の(4)については、内容の(1)から(3)までの学習を踏まえ、課題を適宜設けて探究させ、報告書にまとめたり、発表を行わせたりすること。</p> <p>(2) 内容の程度や範囲については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 内容の(1)のオについては、電流と熱、力と仕事、物質の成分などに関連した身近な自然の事物・現象の中から適宜事例を取り上げ、観察、実験などを基にして扱うこと。イについては、具体的な課題を取り上げ、観察、実験などを中心に扱うこと。その際、得られた数値の処理の仕方やグラフの表し方にも簡単に触れること。</p> <p>イ 内容の(2)のアの(ア)については、多様なエネルギー資源が発電や熱源に利用されていること及び蓄積型のエネルギー資源の成因、分布、埋蔵量の有限性並びにこれらがエネルギーとして利用できる過程についての概略を扱い、環境への配慮が必要であることにも触れること。</p>	<p>(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 内容の(1)のオについては、身の回りの具体的な事例、例えば生物、岩石、鉱物等を肉眼や光学機器で観察させるなど種々の観察の技法を扱うこと。イについては、具体的な課題を設定し、観察、実験の方法に習熟させ、事象を観察させたり、実験を実施させたりすることを中心に扱うこと。例えば、温度と熱、生物の変異、物質、岩石等から適宜課題を選定すること。また、<u>文献の活用の大切さについても触れること。ウについてはデータのまとめ方、グラフの活用や結果の整理の仕方、レポートの書き方などを扱うこと。実験の精度や誤差についても触れるが、初歩的な段階にとどめること。データの整理には適宜コンピュータの活用を図ること。</u></p>
<p>第3 理科総合B</p>	
<p>3 内容の取扱い</p>	
<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>イ 内容の(1)については、内容の(2)から(4)までの事項と関連を図り、具体的な事例を取り上げて扱うこと。また、内容の(2)から(4)までの中で扱うこともできること。指導に当たっては、<u>適宜コンピュータなどの活用を図ること。</u></p> <p>ウ 内容の(2)から(4)までについては、各項目を有機的に関連付けて自然を総合的にとらえられるようにすること。</p> <p>エ 内容の(4)については、内容の(1)から(3)までの学習を踏まえ、課題を適宜設けて探究させ、報告書にまとめたり、発表を行わせたりすること。</p> <p>(2) 内容の程度や範囲については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 内容の(1)のオについては、大地の変動、大気と水の循環、生態系などに関連した身近な自然の事物・現象の中から適宜事例を取り上げ、観察、実験などを基にして扱うこと。イについては、具体的な課題を取り上げ、観察、実験、野外観察、調査などを中心に扱うこと。その際、得られた数値の処理の仕方やグラフの表し方及び野外観察の記録の取り方や整理の仕方などにも簡単に触れること。</p>	
<p>第4 物理</p>	<p>第3 物理 B</p>
<p>3 内容の取扱い</p>	<p>3 内容の取扱い</p>
<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、<u>創意ある報告書の作成や発表を行わせること。また、それらを通して、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の発見など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。</u></p>	<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行うとともに、<u>観察、実験を通して、仮説やモデルの設定、推論、条件制御、測定、数値処理、データの分析・解釈、法則性の発見など、物理学的に探究する方法を習得させ、創意ある研究報告書を作成させること。その際、多様な教材と組み合わせ、適宜コンピュータの活用を図ること。</u></p>
<p>第5 物理</p>	<p>第4 物理</p>
<p>3 内容の取扱い</p>	<p>3 内容の取扱い</p>
<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「物理I」との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>ウ 内容の(5)については、ア及びイの中から一つ以上の適当な課題を設けて適切な時期に研究を行うものとし、<u>創意ある研究報告書の作成や研究発表を行わせること。研究を行うに当たっては、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の発見など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、計測・制御、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</u></p>	<p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「物理 B」との関連を考慮しながら、物理学の基本的な概念の形成を図るとともに、物理学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 内容の(4)については、ア及びイの中から1以上の適当な課題を設けて研究を行い、<u>創意ある研究報告書を作成させるとともに、研究を行うに当たっては、仮説やモデルの設定、推論、条件制御、測定、数値処理、データの分析・解釈、法則性の発見など、物理学的に探究する方法を習得させ、問題解決の能力を育成すること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、計測、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</u></p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>第6 化学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図るとともに、化学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。また、それらを通して、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。</p>	<p>第6 化学 B</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図るとともに、化学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行うとともに、観察、実験を通して、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、データの解釈など、化学的に探究する方法を習得させ、創意ある研究報告書を作成させること。その際、多様な教材と組み合わせ、適宜コンピュータの活用を図ること。</p>
<p>第7 化学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「化学 I」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図るとともに、化学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>ウ 内容の(4)については、ア及びイの中から一つ以上の適当な課題を設けて適切な時期に研究を行うものとし、創意ある研究報告書の作成や研究発表を行わせること。研究を行うに当たっては、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、計測・制御、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>	<p>第7 化学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「化学 B」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図るとともに、化学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 内容の(3)については、ア及びイの中から1以上の適当な課題を設けて研究を行い、創意ある研究報告書を作成させるとともに、研究を行うに当たっては、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、データの解釈など、化学的に探究する方法を習得させ、問題解決の能力を育成すること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、計測、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>
<p>第8 生物</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。また、それらを通して、仮説の設定、実験の計画、情報の収集、調査、対照実験、データの解釈など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。</p>	<p>第9 生物 B</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行うとともに、観察、実験を通して、仮説の設定、推論、分類、対照実験、測定、数的処理、データの解釈など、生物学的に探究する方法を習得させ、創意ある研究報告書を作成させること。その際、多様な教材と組み合わせ、適宜コンピュータの活用を図ること。</p>
<p>第9 生物</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「生物 I」との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>ウ 内容の(4)については、ア及びイの中から一つ以上の適当な課題を設けて適切な時期に研究を行うものとし、創意ある研究報告書の作成や研究発表を行わせること。研究を行うに当たっては、課題や仮説の設定、実験の計画、情報の収集、対照実験、調査、測定、数的処理、分類、データの解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の収集・検索、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>	<p>第10 生物</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「生物 B」との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 内容の(3)については、ア及びイの中から1以上の適当な課題を設けて研究を行い、創意ある研究報告書を作成させるとともに、研究を行うに当たっては、仮説の設定、推論、分類、対照実験、測定、数的処理、データの解釈など、生物学的に探究する方法を習得させ、問題解決の能力を育成すること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>
<p>第10 地学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。また、それらを通して、仮説の設定、実験の計画、情報の収集、野外観察、調査、データの解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。</p>	<p>第12 地学 B</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 中学校理科との関連を考慮しながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行うとともに、観察、実験を通して、仮説の設定、推論、分類、測定、数的処理、データの解釈、資料の活用など、地学的に探究する方法を習得させ、創意ある研究報告書を作成させること。その際、多様な教材と組み合わせ、適宜コンピュータの活用を図ること。</p>
<p>第11 地学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「地学 I」との関連を考慮しながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>ウ 内容の(4)については、ア及びイの中から一つ以上の適当な課題を設けて適切な時期に研究を行うものとし、創意ある研究報告書の作成や研究発表を行わせること。研究を行うに当たっては、課題や仮説の設定、実験の計画、情報の収集、野外観察、調査、数的処理、分類、データの解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の収集・検索、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>	<p>第13 地学</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の構成及びその取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ア 「地学 B」との関連を考慮しながら、地学の基本的な概念の形成を図るとともに、地学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。</p> <p>イ 内容の(3)については、ア及びイの中から1以上の適当な課題を設けて研究を行い、創意ある研究報告書を作成させるとともに、研究を行うに当たっては、仮説の設定、推論、分類、測定、数的処理、データの解釈、資料の活用など、地学的に探究する方法を習得させ、問題解決の能力を育成すること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、分析、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(3) 各科目の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の収集・検索、計測・制御、結果の集計・処理などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用すること。</p>	
<p>第7節 芸術</p> <p>第4 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(2) デザイン</p> <p>ア 機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成</p> <p>イ 造形要素の理解と創造的な表現の構想</p> <p>ウ 表現形式の選択、色彩、材料や用具の生かし方などの技能</p> <p>エ 意図に応じた多様な表現方法の工夫</p> <p>(3) 映像メディア表現</p> <p>ア 映像メディアの特質を生かした心豊かな主題の生成</p> <p>イ 視覚的な伝達効果を考えた表現の構想</p> <p>ウ 色光、機材等の基本的な使い方と活用</p> <p>エ 意図に応じた表現方法や編集の工夫</p> <p>第5 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(2) デザイン</p> <p>ア 生活を心豊かに創造する主題の生成</p> <p>イ 美的・効果的な表現の構想と材料・技法の活用</p> <p>ウ 創造的な表現の追求</p> <p>(3) 映像メディア表現</p> <p>ア 自然、自己、社会などを深く見つめた主題の生成</p> <p>イ 独創性、時間表現、物語性などを考えた表現の構想と多様な機材の活用</p> <p>ウ 創造的な表現の追求</p> <p>第6 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(2) デザイン</p> <p>ア デザイン効果を考えて独創的な主題の生成と表現方法の選択</p> <p>イ 個性を生かす創造的な表現の追求</p> <p>(3) 映像メディア表現</p> <p>ア 独創的な表現の構想と総合的な表現効果を考えた機材の活用</p> <p>イ 個性を生かす創造的な表現の追求</p> <p>第7 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(2) プロダクト制作</p> <p>ア 社会生活や身近な環境を心豊かにするための創造的な発想</p> <p>イ 用途や機能、生産性を考えた制作の構想</p> <p>ウ 材料や用具の活用と制作方法の理解</p> <p>エ 制作過程における吟味と創意工夫</p> <p>第8 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(2) プロダクト制作</p> <p>ア 生活を心豊かに改善するための創造的な発想</p> <p>イ 有用性と美しさとの調和、生産性を考えた制作の構想</p> <p>ウ 材料・技法、用具、構造、手順などを考えた制作</p> <p>エ 制作の吟味と創造的な改善</p> <p>第9 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(2) プロダクト制作</p> <p>ア 生活環境の美的構成と生産性を意図した独創的な発想</p> <p>イ 用途と機能に基づき、個性を生かす創造的な制作の追求</p>	<p>第7節 芸術</p> <p>第4 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(3) デザイン</p> <p>ア 目的や条件を基にした主題の把握</p> <p>イ 造形要素の理解と制作の構想</p> <p>ウ 多様な表現方法の工夫</p> <p>エ 意図に応じた材料や用具の活用</p> <p>第5 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(2) デザイン</p> <p>ア 目的や条件を基にした主題の把握</p> <p>イ 効果的、美的な表し方の構想</p> <p>ウ 材料や用具の選択と活用、表現の工夫</p> <p>第6 美術</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>(3) デザイン</p> <p>ア 主題の把握と構想</p> <p>イ 多様な表現材料や方法による表現の工夫</p> <p>第7 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(1) 工芸のデザイン</p> <p>ア 目的や条件を基にした主題の把握</p> <p>イ 美的秩序を意図したデザインの工夫</p> <p>ウ 材料、技法、構造及び手順を考えた構想</p> <p>エ スケッチ、図、模型などによるデザインの吟味</p> <p>第8 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(1) 工芸のデザイン</p> <p>ア 目的や機能を基にした構想</p> <p>イ 美的秩序を意図したデザインの工夫</p> <p>ウ スケッチ、図、模型などによるデザインの吟味</p> <p>第9 工芸</p> <p>2 内容</p> <p>A 表現</p> <p>表現に関して、次の事項を指導する。</p> <p>(1) 工芸のデザイン</p> <p>ア 機能、形体、素材の追求</p> <p>イ 生活環境の美的構成を意図した構想</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
第8節 外国語	第8節 外国語
<p>第1款 目標</p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。</p>	<p>第1款 目標</p> <p>外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める。</p>
第2款 各科目	第2款 各科目
第1 オーラル・コミュニケーション	第3 オーラル・コミュニケーションA
<p>1 目標</p> <p>日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>身近な日常生活の場面で相手の意向などを聞き取り、自分の考えなどを英語で話す能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2 内容	
(1) 言語活動	
生徒が情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。	
ア 英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する。	
イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。	
ウ 情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。	
エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを理解する。	
3 内容の取扱い	
(2) 読むこと及び書くことも有機的に関連付けた活動を行うことにより、聞くこと及び話すこととの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。	
第2 オーラル・コミュニケーション	第4 オーラル・コミュニケーションB
<p>1 目標</p> <p>幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>話し手の意向などを聞き取る能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2 内容	
(1) 言語活動	
「オーラル・コミュニケーションI」の内容の(1)に示すコミュニケーション活動に加えて、次のようなコミュニケーション活動を行う。	
ア スピーチなどまとまりのある話の概要や要点を聞き取り、それについて自分の考えなどをまとめる。	
イ 幅広い話題について情報や考えを整理し、効果的に発表する。	
ウ 幅広い話題について、話し合ったり、討論したりする。	
エ スキットなどを創作し、演じる。	
(2) 言語活動の取扱い	
ア 指導上の配慮事項	
(1)に示すコミュニケーション活動を効果的に行うために、必要に応じて、次のような指導をするよう配慮するものとする。	
(ア) まとまりのある話を聞きながら必要に応じてメモを取ること。	
(イ) 意図や気持ちを的確に伝えるために、リズム、イントネーション、声の大きさ、スピードなどに注意しながら発音すること。	
(ウ) 発表や話し合い、討論などの活動に必要な表現を活用すること。	
(エ) 話し合い、討論などの基本的なルールや発表の仕方を学習し、それらを活用すること。	
3 内容の取扱い	
「オーラル・コミュニケーションI」の3の内容の取扱いと同様に取り扱うものとする。	
第3 英語	第5 オーラル・コミュニケーションC
<p>1 目標</p> <p>日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>自分の考えなどを整理して発表したり、話し合う能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2 内容	
(1) 言語活動	
生徒が情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。	
ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	
イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	
ウ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。	
エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。	
第4 英語	第1 英語
<p>1 目標</p> <p>幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>話し手や書き手の意向などを理解し、自分の考えなどを英語で表現する基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2 内容	
(1) 言語活動	
1の目標に基づき、「英語I」の内容の(1)に示すコミュニケーション活動を更に発展させて行わせる。	
第5 リーディング	第2 英語
<p>1 目標</p> <p>英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>話し手や書き手の意向などを理解し、自分の考えなどを英語で表現する基礎的な能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2 内容	
(1) 言語活動	
生徒が情報や考えなどの受け手や送り手になるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のようなコミュニケーション活動を行う。	
第6 リーディング	第6 リーディング
<p>1 目標</p> <p>聞き手の意向などを読み取る能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てる。</p>	<p>1 目標</p> <p>聞き手の意向などを読み取る能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てる。</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>ア まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得たり、概要や要点をまとめたりする。</p> <p>イ まとまりのある文章を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えなどをまとめたり、伝えたりする。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 言語材料の理解だけにとどめず、情報や書き手の意向などを的確につかんだり、それについて感想や意見をもったりするなど、読む目的を重視して指導するものとする。</p> <p>第6 ライティング</p> <p>1 目標</p> <p>情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p> <p>[言語の使用場面の例]</p> <p>(ア) 個人的なコミュニケーションの場面：電話、旅行、買い物、パーティー、家庭、学校、レストラン、病院、インタビュー、手紙、電子メールなど</p> <p>(イ) グループにおけるコミュニケーションの場面：レシテーション、スピーチ、プレゼンテーション、ロール・プレイ、ディスカッション、ディベートなど</p> <p>(ウ) 多くの人を対象にしたコミュニケーションの場面：本、新聞、雑誌、広告、ポスター、ラジオ、テレビ、映画、情報通信ネットワークなど</p>	<p>第7 ライティング</p> <p>1 目標</p> <p>自分の考えなどを的確に書く能力を一層伸ばすとともに、英語で表現しようとする積極的な態度を育てる。</p>
<p>第9節 家庭</p> <p>第3 生活技術</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 家庭生活と技術革新</p> <p>ア 科学技術の進展と家庭生活 家庭生活の変化は科学技術の進展と大きくかかわっていることを理解させ、科学技術の家庭生活への適切な活用について考えさせる。</p> <p>イ 家庭生活と情報 高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについて理解させ、コンピュータや情報通信ネットワークを家庭生活に活用できるようにする。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>ウ 内容の(3)のイについては、生徒の実態等に応じて適切なソフトウェアを選択して、その基本操作ができるようにすること。また、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、処理、発信を扱い、コンピュータを家庭生活に活用できるようにすること。その際、情報モラルについて理解させること。</p> <p>第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 各科目の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、学習の効果を高めるようにすること。</p> <p>(2) 生徒が自分の生活に結び付けて学習できるよう、問題解決的な学習を充実すること。</p>	<p>第9節 家庭</p> <p>第2 生活技術</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 家庭経済と消費</p> <p>ウ 生活情報の活用</p> <p>(5) 家庭生活と情報</p> <p>ア 情報の収集と選択</p> <p>イ コンピュータの活用</p> <p>ウ 家庭生活とコンピュータ</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(3) 内容の(5)の指導に当たっては、家庭生活と情報についての基本事項を理解させ、コンピュータの基本的な操作を中心とした指導を行うよう配慮する。</p> <p>第3 生活一般</p> <p>(9) 家庭生活と情報</p> <p>ア 情報の収集と選択</p> <p>イ コンピュータの活用</p> <p>ウ 家庭生活とコンピュータ</p>
<p>第4章 特別活動</p> <p>第1 目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内容</p> <p>A ホームルーム活動</p> <p>ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>(1) ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること。</p> <p>ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上など</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること</p> <p>ア 青年期の悩みや課題とその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会生活における役割の自覚と自己責任、男女相互の理解と協力、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など</p> <p>イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など</p> <p>(3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること</p> <p>学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など</p>	<p>第3章 特別活動</p> <p>第1 目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内容</p> <p>A ホームルーム活動</p> <p>ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルーム生活の充実と向上を図り、生徒が当面する諸課題への対応や健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。</p> <p>(1) ホームルームにおける集団生活の充実と向上に関すること。</p> <p>ホームルームにおける生活上の諸問題の解決、ホームルームを基盤とした集団生活の向上など</p> <p>(2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること。</p> <p>ア 個人生活及び社会生活の充実</p> <p>青年期の特質の理解、自己の個性の理解、人間としての生き方の探究、男女相互の理解と協力、集団生活における人間関係の確立、国際理解と親善など</p> <p>イ 学業生活の充実</p> <p>主体的な学習態度の確立、教科・科目の適切な選択、図書館の利用、情報の適切な活用など</p> <p>ウ 健康・安全</p> <p>健康で安全な生活態度や習慣の確立など</p> <p>(3) 将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。</p> <p>進路適性の理解、進路情報の理解と活用、望ましい職業観の形成、将来の生活の設計、適切な進路の選択決定、進路先への適応など</p>

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>第10節 情報</p> <p>第1款 目標</p> <p>情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p> <p>第2款 各科目</p> <p>第1情報 A</p> <p>1 目標</p> <p>コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 情報を活用するための工夫と情報機器</p> <p>ア 問題解決の工夫</p> <p>問題解決を効果的に行うためには、目的に応じた解決手順の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。</p> <p>イ 情報伝達の工夫</p> <p>情報を的確に伝達するためには、伝達内容に適した提示方法の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。</p> <p>(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用</p> <p>ア 情報の検索と収集</p> <p>情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得させる。</p> <p>イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方</p> <p>情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。</p> <p>ウ 情報の収集・発信における問題点</p> <p>情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題及びそれを解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。</p> <p>(3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用</p> <p>ア コンピュータによる情報の統合</p> <p>コンピュータの機能とソフトウェアとを組み合わせることで活用することを通して、コンピュータは多様な形態の情報を統合できることを理解させる。</p> <p>イ 情報の統合的な処理</p> <p>収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。</p> <p>(4) 情報機器の発達と生活の変化</p> <p>ア 情報機器の発達とその仕組み</p> <p>情報機器の発達の歴史に沿って、情報機器の仕組みと特性を理解させる。</p> <p>イ 情報化の進展が生活に及ぼす影響</p> <p>情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。</p> <p>ウ 情報社会への参加と情報技術の活用</p> <p>個人が情報社会に参加する上でコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であること及び将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解させる。</p> <p>3 内容の取扱い (説明は省略します。)</p> <p>第2情報 B</p> <p>1 目標</p> <p>コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 問題解決とコンピュータの活用</p> <p>ア 問題解決における手順とコンピュータの活用</p> <p>問題解決においては、解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えること及びコンピュータの適切な活用が有効であることを理解させる。</p> <p>イ コンピュータによる情報処理の特徴</p> <p>コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。</p> <p>(2) コンピュータの仕組みと働き</p> <p>ア コンピュータにおける情報の表し方</p> <p>文字、数値、画像、音などの情報をコンピュータ上で表す方法についての基本的な考え方や情報のデジタル化の特性を理解させる。</p> <p>イ コンピュータにおける情報の処理</p> <p>コンピュータの仕組み、コンピュータ内部での基本的な処理の仕組み及び簡単なアルゴリズムを理解させる。</p> <p>ウ 情報の表し方と処理手順の工夫の必要性</p> <p>コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。</p> <p>(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決</p> <p>ア モデル化とシミュレーション</p> <p>身のまわりの現象や社会現象などを通して、モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。</p> <p>イ 情報の蓄積・管理とデータベースの活用</p> <p>情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、簡単なデータベースを設計し、活用できるようにする。</p> <p>(4) 情報社会を支える情報技術</p> <p>ア 情報通信と計測・制御の技術</p> <p>情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解させる。</p> <p>イ 情報技術における人間への配慮</p> <p>情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解させる。</p>	

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>ウ 情報技術の進展が社会に及ぼす影響 情報技術の進展が社会に及ぼす影響を認識させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えについて考えさせる。</p> <p>3 内容の取扱い (説明は省略します。)</p> <p>第3 情報 C</p> <p>1 目標 情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 情報のデジタル化</p> <p>ア 情報のデジタル化の仕組み コンピュータなどにおける、文字、数値、画像、音などの情報のデジタル化の仕組みを理解させる。</p> <p>イ 情報機器の種類と特性 身のまわりで見られる情報機器について、その機能と役割を理解させるとともに、デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを理解させる。</p> <p>ウ 情報機器を活用した表現方法 情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容を分かりやすく表現する方法を習得させる。</p> <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>ア 情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解させる。</p> <p>イ 情報通信の効率的な方法 情報伝達の色度や容量を表す単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。</p> <p>ウ コミュニケーションにおける情報通信ネットワークの活用 電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて、コミュニケーションの目的に応じた効果的な活用方法を習得させる。</p> <p>(3) 情報の収集・発信と個人の責任</p> <p>ア 情報の公開・保護と個人の責任 多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。</p> <p>イ 情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信 身のまわりの現象や社会現象などについて、情報通信ネットワークを活用して調査し、情報を適切に収集・分析・発信する方法を習得させる。</p> <p>(4) 情報化の進展と社会への影響</p> <p>ア 社会で利用されている情報システム 社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。</p> <p>イ 情報化が社会に及ぼす影響 情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。</p> <p>3 内容の取扱い (説明は省略します。)</p>	
<p>第1章 総 則</p> <p>第4款 総合的な学習の時間</p> <p>2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。</p> <p>(1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。</p> <p>(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。</p> <p>3 各学校においては、上記2に示すねらいを踏まえ、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じ、例えば、次のような学習活動などを行うものとする。</p> <p>ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動</p> <p>イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動</p> <p>5 総合的な学習の時間の学習活動を行うに当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 自然体験やボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。</p> <p>(2) グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。</p>	
<p>イ 情報化社会の特質、情報化の社会や人間に対する影響の理解</p> <p>ウ 情報の重要性の認識、情報に対する責任感</p>	
<p>新学習指導要領</p> <p>第2節 地理歴史</p> <p>第1 世界史A</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 現代の世界と日本</p> <p>カ 科学技術と現代文明 原子力の利用、情報科学、宇宙科学の出現など現代の科学技術の人類への寄与と課題を追究させ、人類の生存と環境、世界の平和と安全</p>	<p>現行学習指導要領</p> <p>第2節 地理歴史</p> <p>第1 世界史A</p> <p>2 内容</p> <p>(4) 現代世界と日本</p> <p>オ 科学技術と現代文明 原子力の利用、情報科学、宇宙科学の出現など現代の科学技術の人類への寄与と課題に触れ、人類の生存と環境、世界の平和と安全などにつ</p>

<p>などについて考察させるとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付かせる。</p> <p>第2 世界史B</p> <p>2 内容</p> <p>(5) 地球世界の形成</p> <p>オ 科学技術の発達と現代文明 情報化、先端技術の発達、環境問題などを歴史的観点から追究させ、科学技術と現代文明について考察させる。</p> <p>第4 日本史B</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 歴史の考察</p> <p>ア</p> <p>(9) 技術や情報の発達と教育の普及 人々の生活の変化に着目して、各時代における産業や生活の中の技術、交通、情報などの発達や教育の普及の影響について追究させる。</p>	<p>いて考察させるとともに、国際的な交流と協調の必要性に着目させる。</p> <p>第3 日本史A</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開を、時代ごとに区切らずに考察することを通して、学習の深化と歴史的思考力の育成を図るため、次のアからオまでのうち二つ程度を選択して学習させるものとする。</p> <p>ア 法制の変化と社会 日本における各時代の法制の特色とその変化を理解させるとともに、それらが社会的な背景とどのように関連していたかを考察させる。</p> <p>イ 産業・生活技術と交通の発達 産業や生活の中で技術及び交通機関の発達などが、どのように生産の拡大、生活の変化、人、物、情報の移動をもたらしたかを考察させる。</p> <p>第6 地理B</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 生活と産業 世界の人の生活の地域的特色とその動向を産業や居住の問題と関連付けて理解させ、交通・通信、流通などの産業の動向が人々の行動や地域の産業、文化などに及ぼす影響について考察させる。</p> <p>ア 産業の立地と地域の変容 農業、工業など産業活動の地域的特色をその立地と形成の諸条件と関連付けて理解させ、産業の立地と地域の変容の関係について考察させる。</p> <p>イ 産業の国際化、情報化と地域文化 諸地域の産業活動の現状と動向を国際化、情報化の進展と関連付けて理解させ、これらの社会の変化が諸地域の産業活動に及ぼす影響について考察させる。</p>
<p>第3節 公民</p> <p>第1 現代社会</p> <p>2 内容</p> <p>(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方</p> <p>ア 現代の社会生活と青年 大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>第2 倫理</p> <p>2 内容</p> <p>(2) 現代と倫理 現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>ウ 現代の諸課題と倫理 生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	<p>第3節 公民</p> <p>第1 現代社会</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 現代社会における人間と文化</p> <p>ウ 現代社会の特質と青年期の課題 大衆社会、高齢化社会、情報化社会など現代社会の特質を理解させ、それとの関連で学ぶことの意義及び青年期における自己形成の課題について認識を深めさせ、進路の選択と併せてよく生きることと生きがいの追求についての自覚を深めさせる。</p> <p>(3) 現代の政治・経済と人間</p> <p>イ 国民福祉と政府の経済活動 現代の市場と企業、技術革新などと情報化や国際化の進展について理解させ、我が国の経済社会の変化について考えさせる。また、国民所得の動き、産業構造の変化、雇用問題と労働関係、消費者保護と契約、社会保障の充実、社会資本の整備などについての理解を深めさせるとともに、公的部門の役割と租税の意義について考えさせ、国民生活の向上と福祉の増大に対する認識を深めさせる。</p> <p>第2 倫理</p> <p>2 内容</p> <p>(2) 現代社会と倫理 現代社会の特質について理解させ、現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせる。</p> <p>ア 現代社会の特質と人間 現代の人間像に触れながら、核家族化、高齢化、情報化、国際化などの現代社会の特質への理解を深め、人間と社会のかかわりを考えさせる。</p>

<p>新学習指導要領</p> <p>第9節 家庭</p> <p>第3 生活技術</p> <p>2 内容</p> <p>(3) 家庭生活と技術革新</p> <p>ア 科学技術の進展と家庭生活</p> <p>イ 家庭生活と情報 高度情報通信社会と家庭生活とのかかわりについて理解させ、コンピュータや情報通信ネットワークを家庭生活に活用できるようにする。</p>	<p>現行学習指導要領</p> <p>第9節 家庭</p> <p>第2 生活技術</p> <p>2 内容</p> <p>(5) 家庭生活と情報</p> <p>イ コンピュータの活用</p> <p>ウ 家庭生活とコンピュータ</p>
--	---

<p>第4章 特別活動</p> <p>第1 目 標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内 容 A ホームルーム活動 ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルームや学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 (1) ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること。 ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動、学校における多様な集団の生活の向上など (2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること ア 青年期の悩みや課題とその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会生活における役割の自覚と自己責任、男女相互の理解と協力、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など イ 心身の健康と健全な生活態度や習慣の確立、生命の尊重と安全な生活態度や習慣の確立など (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること 学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など</p>	<p>第3章 特別活動</p> <p>第1 目 標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>第2 内 容 A ホームルーム活動 ホームルーム活動においては、学校における生徒の基礎的な生活集団として編成したホームルームを単位として、ホームルーム生活の充実と向上を図り、生徒が当面する諸課題への対応や健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 (1) ホームルームにおける集団生活の充実と向上に関すること。 ホームルームにおける生活上の諸問題の解決、ホームルームを基盤とした集団生活の向上など (2) 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること。 ア 個人生活及び社会生活の充実 青年期の特質の理解、自己の個性の理解、人間としての生き方の探究、男女相互の理解と協力、集団生活における人間関係の確立、国際理解と親善など イ 学業生活の充実 主体的な学習態度の確立、教科・科目の適切な選択、図書館の利用、情報の適切な活用など ウ 健康・安全 健康で安全な生活態度や習慣の確立など (3) 将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。 進路適性の理解、進路情報の理解と活用、望ましい職業観の形成、将来の生活の設計、適切な進路の選択決定、進路先への適応など</p>
<p>第10節 情 報</p> <p>第1款 目 標 情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p> <p>第2款 各 科 目 第1 情 報 A 1 目 標 コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内 容 (2) 情報の収集・発信と情報機器の活用 ウ 情報の収集・発信における問題点 情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題及びそれを解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。</p> <p>(4) 情報機器の発達と生活の変化 イ 情報化の進展が生活に及ぼす影響 情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。 ウ 情報社会への参加と情報技術の活用 個人が情報社会に参加する上でコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であること及び将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解させる。</p> <p>第2 情 報 B 1 目 標 コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。</p> <p>2 内 容 (4) 情報社会を支える情報技術 イ 情報技術における人間への配慮 情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解させる。 ウ 情報技術の進展が社会に及ぼす影響 情報技術の進展が社会に及ぼす影響を認識させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えについて考えさせる。</p>	
<p>新学習指導要領</p> <p>第3 情 報 C 1 目 標 情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。</p> <p>2 内 容 (2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション ア 情報通信ネットワークの仕組み 情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解させる。</p>	<p>現行学習指導要領</p>

<p>イ 情報通信の効率的な方法 情報伝達の手速や容量を表す単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。</p> <p>(3) 情報の収集・発信と個人の責任 ア 情報の公開・保護と個人の責任 多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。</p> <p>(4) 情報化の進展と社会への影響 ア 社会で利用されている情報システム 社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。</p> <p>イ 情報化が社会に及ぼす影響 情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の(2)のアのセキュリティを確保するための工夫については、身近な事例を通して、個人認証や暗号化の必要性、情報通信ネットワークの保守・管理の重要性などを扱うものとする。イについては、誤り検出・訂正、情報の圧縮などの原理を平易に扱うものとする。ウについては、実習を中心に扱うようにする。</p> <p>(3) 内容の(3)のアの情報の保護の必要性については、プライバシーや著作権などの観点から扱い、情報の収集・発信に伴って発生する問題については、誤った情報や偏った情報が人間の判断に及ぼす影響、不適切な情報への対処法などの観点から扱うようにする。イについては、適切な題材を選び、情報の収集から分析・発信までを含めた一連の実習を中心に扱うようにする。情報の分析については、表計算ソフトウェアなどの簡単な統計分析機能やグラフ作成機能などを扱うようにする。</p> <p>(4) 内容の(4)のイについては、情報化が社会に及ぼす影響を、情報通信ネットワークなどを活用して調べたり、討議したりする学習を取り入れるようにする。</p>	
--	--

<p>エ 情報科学の基礎及び情報手段（特にコンピュータ）の特徴の理解、基本的な操作能力の習得</p>	
<p>新学習指導要領</p> <p>第4節 数 学</p> <p>第6 数 学 B</p> <p>1 目 標 数列、ベクトル、統計又は数値計算について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>(3) 統計とコンピュータ 統計についての基本的な概念を理解し、身近な資料を表計算用のソフトウェアなどを利用して整理・分析し、資料の傾向を的確にとらえることができるようにする。 ア 資料の整理 度数分布表、相関図 イ 資料の分析 代表値、分散、標準偏差、相関係数</p> <p>(4) 数値計算とコンピュータ 簡単な数値計算のアルゴリズムを理解し、それを科学技術計算用のプログラミング言語などを利用して表現し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ア 簡単なプログラム イ いろいろなアルゴリズム</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(4) 内容の(3)については、理論的な考察には深入りしないものとする。 (5) 内容の(4)のイについては、プログラミング技術には深入りしないものとする。イの(ア)については、ユークリッドの互除法などを扱い、(イ)については、二分法、台形公式による面積の近似計算などを扱う程度とする。</p>	<p>現行学習指導要領</p> <p>第4節 数 学</p> <p>第4 数 学 A</p> <p>1 目 標 「数学」より広い内容として、数と式、平面幾何、数列又はコンピュータを用いる計算について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>(4) 計算とコンピュータ ア コンピュータの操作 イ 流れ図とプログラム ウ コンピュータによる計算</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(6) 内容の(4)のイについては、プログラムの構造について理解させることに重点を置き、簡単なプログラムを取り扱う程度とする。ウについては、中学校又は「数学」での既修の内容に関する計算をコンピュータによって実行させる程度とする。</p> <p>第5 数 学 B</p> <p>1 目 標 「数学」及び「数学」より進んだ内容として、ベクトル、複素数と複素数平面、確率分布又はコンピュータにおける算法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。</p> <p>2 内 容</p> <p>(4) 算法とコンピュータ ア コンピュータの機能 イ いろいろな算法とプログラム</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(5) 内容の(4)のイについては、ユークリッドの互除法、繰り返しによる平方根の計算などを取り扱う程度とする。</p>

<p>新学習指導要領</p>	<p>現行学習指導要領</p> <p>第6 数 学 C</p> <p>1 目 標 応用数理の観点から、コンピュータを活用して、行列と線型計算、いろいろな曲線、数値計算又は統計処理について理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) この科目は、履修する生徒の実態に応じて、内容の(1)から(4)までの中から適宜選択させるものとする。 (2) 内容の(1)のイについては、3×3行列を取り扱うものとする。ただし、逆行列の計算については、2×2行列にとどめる程度とする。 (3) 内容の(2)については、コンピュータを活用するなどによっていろいろ</p>
----------------	---

	な曲線を観察、考察し、簡単な図形については実際に描けるようにする。
	<p>第5節 理 科</p> <p>第2 物理 A</p> <p>2 内 容</p> <p>(4) 情報とその処理</p> <p>ア 情報の伝達</p> <p>イ 情報の処理</p> <p>ウ 情報の記憶</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>エ 内容の(4)のアについては、<u>エレクトロニクスの進歩と関連させて、電波や光によって情報が伝達されることを扱うこと。イについては、コンピュータの仕組みと特徴に触れるが、深入りしないこと。ウについては、情報の記憶には磁性体や半導体の性質が利用されていることについて平易に触れるが、技術的な事項には深入りしないこと。</u></p>
<p>第10節 情 報</p> <p>第1款 目 標</p> <p>情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。</p> <p>第1 情報 A</p> <p>1 目 標</p> <p>コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、<u>情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。</u></p> <p>2 内 容</p> <p>(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用</p> <p>イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方</p> <p>情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、<u>情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。</u></p> <p>(3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用</p> <p>ア コンピュータによる情報の統合</p> <p>コンピュータの機能とソフトウェアとを組み合わせることで活用することを通して、<u>コンピュータは多様な形態の情報を統合できることを理解させる。</u></p> <p>イ 情報の統合的な処理</p> <p>収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。</p> <p>(4) 情報機器の発達と生活の変化</p> <p>ア 情報機器の発達とその仕組み</p> <p>情報機器の発達の歴史に沿って、<u>情報機器の仕組みと特性を理解させる。</u></p> <p>第2 情報 B</p> <p>1 目 標</p> <p>コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み、情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ、問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。</p> <p>2 内 容</p> <p>(1) 問題解決とコンピュータの活用</p> <p>ア 問題解決における手順とコンピュータの活用</p> <p>問題解決においては、<u>解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えること及びコンピュータの適切な活用が有効であることを理解させる。</u></p> <p>イ コンピュータによる情報処理の特徴</p> <p>コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。</p> <p>(2) コンピュータの仕組みと働き</p> <p>ア コンピュータにおける情報の表し方</p> <p>文字、数値、画像、音などの情報をコンピュータ上で表す方法についての基本的な考え方や情報のデジタル化の特性を理解させる。</p> <p>イ コンピュータにおける情報の処理</p> <p>コンピュータの仕組み、コンピュータ内部での基本的な処理の仕組み及び簡単なアルゴリズムを理解させる。</p> <p>ウ 情報の表し方と処理手順の工夫の必要性</p> <p>コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、<u>情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。</u></p> <p>(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決</p> <p>ア モデル化とシミュレーション</p> <p>身のまわりの現象や社会現象などを通して、<u>モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。</u></p>	

<p>新学習指導要領</p> <p>イ 情報の蓄積・管理とデータベースの活用</p> <p>情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、簡単なデータベースを設計し、活用できるようにする。</p> <p>(4) 情報社会を支える情報技術</p> <p>ア 情報通信と計測・制御の技術</p> <p>情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解させる。</p> <p>3 内容の取扱い</p> <p>(1) 内容の(1)については、(2)以降の内容の基礎となる体験ができるような実習を扱うようにする。アについては、問題解決の手順を明確</p>	<p>現行学習指導要領</p>
--	-----------------

に記述させる指導を取り入れるようにする。イについては、人間とコンピュータの情報処理を対比させて、コンピュータの処理の高速性を示す例や、人間にとっては簡単な情報処理がコンピュータでは必ずしも簡単ではない例などを体験できる実習を扱うようにする。

- (2) 内容の(2)については、コンピュータや模型などを使った学習を取り入れるようにする。ア及びイについては、図を用いた説明などによって基本的な考え方を理解させることを重視するようにする。イのコンピュータ内部での基本的な処理の仕組みについては、一つ一つの命令がステップで動いていることを扱う程度とする。アルゴリズムの具体例については、並べ替えや探索などのうち、基本的なものにとどめるようにする。
- (3) 内容の(3)については、ソフトウェアやプログラミング言語を用い、実習を中心に扱うようにする。その際、ソフトウェアの利用技術やプログラミング言語の習得が目的とならないようにする。アについては、内容の(2)のイ、ウ及び(4)のアと関連付けた題材や、時間経過や偶然性に伴って変化する現象などのうち、簡単にモデル化できる題材を扱い、数理的、技術的な内容に深入りしないようにする。

第3 情報 C

1 目標

情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。

2 内容

(1) 情報のデジタル化

ア 情報のデジタル化の仕組み

コンピュータなどにおける、文字、数値、画像、音などの情報のデジタル化の仕組みを理解させる。

イ 情報機器の種類と特性

身のまわりに見られる情報機器について、その機能と役割を理解させるとともに、デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを理解させる。

ウ 情報機器を活用した表現方法

情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容を分かりやすく表現する方法を習得させる。

(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション

ア 情報通信ネットワークの仕組み

情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解させる。

イ 情報通信の効率的な方法

情報伝達の速度や容量を表す単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。

ウ コミュニケーションにおける情報通信ネットワークの活用

電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて、コミュニケーションの目的に応じた効果的な活用方法を習得させる。

(4) 情報化の進展と社会への影響

ア 社会で利用されている情報システム

社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。